

私が今回明大国日リサーチに参加しようと思った理由は、実際に放送業界の第一線で活躍されている方のもとで調査を行う機会など滅多にあるものではないと考えたからです。

調査の本質とは少しずれるのですが、この調査はそもそも「音楽を聴く」ことが前提で行われたものであり、もちろんこの講義に興味を持った学生が集まってきていることもあるとは思いますが、この調査が成り立つこと自体が、音楽がいかに身近なものであるかを改めて感じさせてくれるものでありました（例えばこれを本や映画など他の娯楽に変えたら、ここまで多くの学生から積極的な回答が得られることはなかったのではないのでしょうか）。

私が分析を担当したのは「あなたが音楽を聴きたくなるのはどんな時ですか？」という設問です。特徴的だと思ったのが、「通学時、満員電車に負けないように音楽を聴く」と答えていた人が複数人いたことです。確かに、あまりにひどい満員電車では音楽を聴く以外のことをするのが難しいですが、だからといってただ時間をつぶすために聴くのではなく、その人ごみに対して反抗するように音楽を聴くというのはやはり、音楽が与える力の強さを感じさせますよね。実際にどのような曲を聴いているのか知りたいと思いました。きっと10人に聞いたら、10人全員から違う答えが返ってくるでしょう。「1人1ジャンル」の時代であることも、この調査を通して強く感じたことです。

自分の好みの音楽を iPod や Walkman などのミュージックプレイヤーに入れて持ち運ぶ時代から、月々定額を払えば（もしくはある程度であれば無料で）手持ちのスマートフォンであらゆるジャンルの音楽を楽しめる時代へと、この数年だけでも音楽市場は大きな変化を遂げました。世界的に見ても珍しい CD 文化が続いていることも含め、今後日本の音楽市場がどのように発展していくのか、ますます興味が湧く、そんな調査でした。